

あいち病害虫情報 最新情報

令和4年7月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

7月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、最近1週間（7月7日～7月13日）の天候経過は、平均気温及び日照時間は平年並ですが、降水量は多い（平年比：168%）状況です。また、向こう1か月の天候の見通しは、平年と同様に晴れの日が多いですが、1週目（7月16日～7月22日）は気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

イネいもち病

7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生量は過去10年で最も多い状況です。BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果では、7月1日から14日までの間に新城と稲武で葉いもちの感染好適日が観測されています。今後の気象条件によっては、発生量が増える可能性がありますので、発生状況に注意しましょう。詳細は、本日発表の「いもち病情報第3号」を参照してください。

斑点米カメムシ類

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、弥富市、豊川市で多く、西尾市でやや多い状況です。7月上旬の巡回調査では、斑点米カメムシ類の捕獲数は水田内及び畦畔雑草で平年並です。しかし、水田内のイネカメムシの捕獲数は一部ほ場で多い状況ですので、**注意が必要です**。また、早期栽培水田では、すでに出穂しているほ場があります。周辺の水田よりも出穂が早いほ場では、斑点米カメムシ類が集中して飛来することがありますので特に注意が必要です。今後、出穂期に入るほ場では、出穂2～3週間前までに畦畔雑草の除草を行いましょう。防除対策等については、本日発表の「令和4年度発生予察注意報第3号」を参照してください。

トビイロウンカ、セジロウンカ

トビイロウンカは、7月上旬の巡回調査で捕獲されておらず、予察灯にも誘殺されていません。しかし、近隣県の予察灯に誘殺が確認されているため、既に本県に飛来している**可能性があります**。詳細は、本日発表の「ウンカ類情報第2号（トビイロウンカ）」を参照してください。

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、103ほ場中9ほ場で発生を確認し、発生量は平年並です。予察灯ではこれまで弥富市で6月第6半旬に1頭誘殺されています。

トビイロウンカとセジロウンカは、ほ場ごとで発生密度に差があるので、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意してください。

ニカメイガ

弥富市に設置している予察灯において、6月第6半旬に4頭の誘殺が確認されており、7月1日に16頭の誘殺が確認されています（7月第1半旬の誘殺合計数については調査中です）。これらの状況から、次世代による被害が多発するおそれがあります。本害虫による被害が多発した場合、心枯れ茎や白穂となる株が増加し、坪枯れ症状を呈することがあります。ほ場での発生状況に注意するとともに、発生が多い場合はパダンSG水溶剤やディアナSCなどで防除しましょう。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は概ね平年並ですが、碧南市では増加傾向です。今後の発生動向に十分注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は概ね平年並です。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現時点では概ね平年並ですが、近年多い傾向を示していますので、今後の発生動向に注意が必要です。

果樹の病害

すでに収穫に入っている作物、品種があります。農薬散布にあたっては、当該ほ場だけでなく、周辺のほ場の収穫時期も考慮して、収穫前日数及び農薬の飛散に十分注意してください。

6月下旬に実施した巡回調査において、ブドウべと病の発生量は、平年並でした。しかし、その後の降水量が多く、病気の発生が拡大している可能性がありますので、ほ場での発生状況に十分注意しましょう。

ナシ黒星病は、6月下旬の巡回調査で果実における発生量はやや少なく、葉における発生量は平年並です。しかし、その後の降水量が多く、病気の発生が拡大している可能性がありますので、ほ場での発生状況に注意しましょう。

モモせん孔細菌病は、この時期に形成される夏型枝病斑から活発に病原菌が増殖、漏出します。これが感染源になるので、見つけ次第切除し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。次作への越冬病原菌量を増やさないためにも、収穫後の秋防除を行いましょう。

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの誘殺数は予察灯ではほぼ平年並ですが、フェロモントラップでは一部地域で6月下旬から7月上旬にかけて誘殺数が急増しました。7月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されています。そのため、果樹カメムシの活動に適した気象となるため注意が必要です。今の時期、チャバネアオカメムシはヒノキやスギの球果などを餌として生育しており、これらの球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来します。果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて防除しましょう。防除対策等は、7月1日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。また、8月上旬ごろ発表予定の「果樹カメムシ情報第3号」で、7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載する予定ですので、参照してください。

チャノキイロアザミウマ

カンキツほ場における本種の黄色粘着トラップにおける誘殺状況は、蒲郡市で多く、南知多町で平年並です。また、ブドウほ場における誘殺状況は平年並です。本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（下表）を参考に防除を行いましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（7月15日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第3世代	7/5	7/4	6/30	7/1	7/5	7/6	7/3	7/4	7/8	7/4	第2世代	7/4
第4世代	7/23	7/23	7/19	7/20	7/24	7/25	7/22	7/23	7/27	7/23	第3世代	7/27
(前年)	7/24	7/23	7/20	7/19	7/24	7/25	7/22	7/23	7/29	7/22	(前年)	7/31
前年差	1日早	±0	1日早	1日遅	±0	±0	±0	±0	2日早	1日遅	前年差	4日早
第5世代	8/9	8/10	8/4	8/6	8/10	8/11	8/9	8/9	8/14	8/9	第4世代	8/17

各地のアメダス平均気温から予測。7月14日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。前年の第4世代（稲武は第3世代）は前年気温の実測値を用いて計算。

ナシヒメシンクイ

6月下旬に実施した巡回調査において、モモのナシヒメシンクイによる被害新梢率は過去10年で最も多い状況でした。今後、ナシにおいても被害が発生するおそれがありますので注意しましょう。詳細は7月1日発表の「ナシヒメシンクイ情報第1号（ナシ、モモ）」を参照してください。

イチゴ炭疽病

イチゴ炭疽病の発生が一部の育苗ほ場で確認されています。今後のほ場での発生に注意しましょう。発生を確認したら、発病株は速やかに処分し、発病株の周辺にある株も同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。また、育苗終了まで定期的に薬剤で予防防除を行いましょう。

トマト苗へのコナジラミ類の寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミが露地で活発に活動する時期です。育苗時におけるウイルス病の感染防止のため、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820